

正伝 新陰流の系統

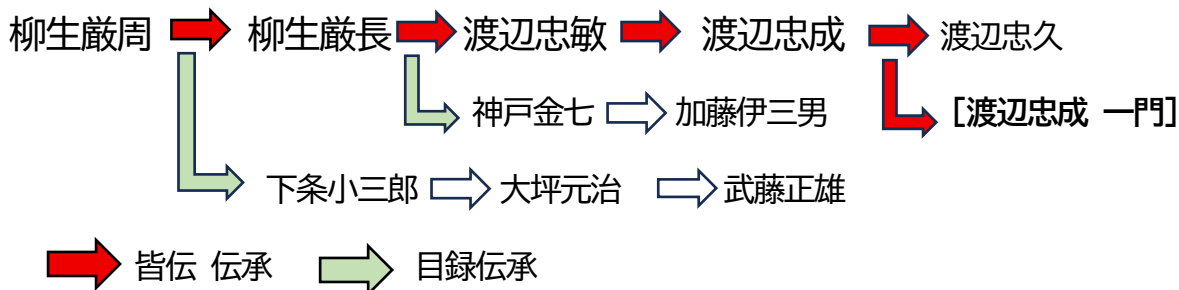
新陰流兵法 関西転心会

関西の発足当時に、渡辺忠成先生から伝えられた「新陰流」の流派の系統と説明です。

(一部:現在の部分は加筆しています)

系統は武道流派大事典(綿谷雪, 山田忠史 著/新人物往来社)に掲載されている系統は誤りで、下記の図が「真実」であるということでした。

[正]



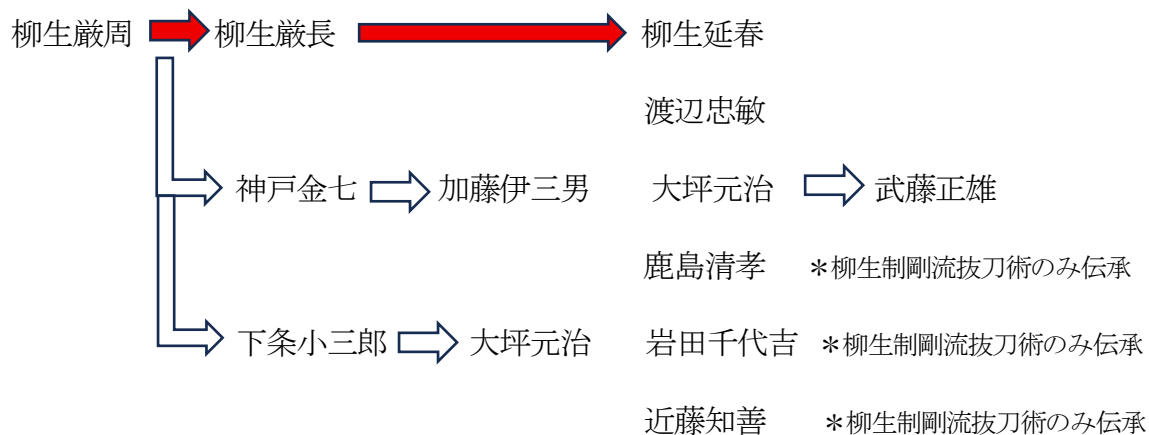
★ [渡辺忠成 一門]

関西転心会 研心会(東京都文京区/吹田市) 転成会(川越) 伝心会(武蔵野) 成連塾(多摩)など

* 神戸金七氏 = 名古屋:春風館 (赤羽根氏の鎌倉春風館や、二蓋笠会は春風館の流れを汲むもの)

* 柳生延春氏は正式には「厳長先生」から道統を譲られていない

[誤] 武道流派大事典



【主な新陰流 諸派団体】

新陰流 兵法 転会 (転会から一門として分派した団体を含む)

柳生新陰流 兵法 柳生会(尾張・柳生宗家)

柳生新陰流 兵法 春風館

柳生新陰流 兵法 清風会(現在の「二蓋笠会」の前身)

柳生新陰流 兵法 春風会

柳生新陰流 兵法 大坪派 武藤系

柳生新陰流 兵法 大坪派 鶴山系

柳生新陰流 兵法 勢州会 (北九州)

柳生新影流 兵法 柳心会 (北九州)

【制剛流系 諸派団体】

制剛流抜刀術 桃嶺会（新陰流兵法転会の制剛流抜刀術 部門の会名）
柳生制剛流抜刀術 柳生会
新陰流居合先心会
新陰流居合知立道場
柳生新陰流居合
柳生流居合
柳生新陰流兵法大和柳生会

【諸団体の説明】

「柳生新陰流兵法剣術／柳生制剛流抜刀術 柳生会」

新陰流兵法二十世「柳生厳長」によって始められた「柳生会」をその子息「柳生延春」が継承した形になっているが、東京柳生会に於いても、名古屋柳生会に於いても厳長門下の古参の人は徐々に去り、東京柳生会に於いては、厳長門下の者は一人もおらず新人ばかりの団体である。

また、名古屋柳生会に於いても、(延春氏が)宗家就任に反対した、厳長門下の人達がみんな去った状態で新人ばかりで組織された。

柳生延春はやっと「小転」の伝位までしか修行できておらず、柳生会の指導に当たっては「新陰流兵法太刀伝(渡辺忠敏師、忠成先生が編集し転会で出版した日本で初めての新陰流のテキスト)を学習して指導を開始、その後、各種の伝書を自分流に解釈して指導を行っており、全く本筋から離れてしまい、新陰流もどきの如く成り下がってしまった。

又、併せて指導した「柳生制剛流」もかなり変質したもので、「制剛流抜刀術」の術名を「柳生制剛流」としたのも柳生延春氏である。

柳生厳長師がその都度、柳生流、新陰流、柳生制剛流、制剛流の名称を統一なく使用していたのを一本化したと本人から(渡辺忠成先生は)聞いている。

東京、名古屋、大阪と各「柳生会」に於いて、夫々後継を争い、派ができていていると聞いている。

* 伝えられた時点では、延春氏が柳生会の宗家

「柳生新陰流兵法 春風館道場」

神戸金七の門人「加藤伊三男」によって建てられた道場。神戸金七は死亡するまでこの道場に住込んでいた。加藤伊三男は十三世宗家を名乗っている。加藤伊三男は神戸金七と同じく「偽伝書」造り及び「勝手に型」を作り出す名人である。

柳生新陰流兵法 清風会(現在の「二蓋笠会」の前身)

(上記の)春風館へ数度訪問した地元の柳生出身の「旗嶺(某)」によって作られた会。旗嶺は神戸金七の門下と云っているが、実際は加藤伊三男の門人というべきであろう。春風館からは伝位は出ていないと聞いているが、勝手に伝位を出している。

「柳生新陰流兵法 春風会」

柳生厳長、神戸金七、吉田重成について修行し、「皆伝」を受けたと自称する「小池(某)」を師範とする会。鎌倉及び東林間にて「二天一流」と共に指導している。

「柳生新陰流兵法 大坪派」

下条小三郎 門下の大坪元治系の武藤系及び鶴山系は共に「江戸派」を名乗っているが、全く尾州柳生一門である。大坪元治は柳生厳長より、「江戸時代の伝書の下書き」をもらい受けたのを「皆伝印可」と誤解して、師範印可者と名乗っていた。武藤及び鶴山は共に大坪元治より「目録」を授けられたのを「師範印可」と誤解し門人を養成している。武藤は「天狗抄」、鶴山は「大転くらい」の実力である。鶴山系は鶴山死亡後、数人の者が指導者として指導に当たっている。

「柳生新陰流 柳心会」

九州に伝わった「有地新陰流」の末。現在、柳生新陰流を名乗り「蒲地(某)」が宗家を名乗り、広島、岡山に支部がある。太刀名はすべて「新陰流」と同一であるが、刀法は忘却されてしまい、全く「居合」となっているとのこと。

「新陰流兵法 勢州会」

蒲地(某)宗家の先代の門人「浜田勢州」が独立して作った会。「居合」を中心にしているが、「新陰流兵法太刀伝」等により刀法を復原しつつ研究を行っている。

「新陰流居合 洗心会」

鹿島清孝の門人「秋田森治」を中心とする会で、その特徴は全員「全剣連」参加者であることと、流名を使用しているが、古流の伝位ではなく、全剣連の級、段で通していることである。秋田森治は八段範士である。太刀名はほぼ「制剛流」と同じであるが、「全剣連」の審査者の目に合うように変質させてしまっており、全く別流の如きである。

「制剛流」を「新陰流」に改称したのは「鹿島清孝」であるが、その居合の理論的な面に於いて「新陰流」とは全く別物であり、世間に誤解を与えている。

(※ 鹿島清孝は柳生厳長と仲違いし、分かれたそうである)

「新陰流居合 知立道場」

鹿島清孝の門人「鈴木安近」を中心としたグループ

「柳生新陰流 居合」

鹿島清孝の門人「森 十郎」を中心としたグループで、岐阜で活動している。

「柳生新陰流兵法 大和柳生会」

大和柳生会は大和派とも名乗っているが、江戸柳生とは何等関係がない。故「大谷玄洲」によって作られた会であり、現在は「曾野正鴻」が十七代宗家を名乗っている。「大谷玄洲」は十六代。その門人の「曾野正鴻」は十七代を名乗るも何等根拠のないものである。ちなみに制剛流は流祖より「渡辺忠成」で十四世となる。「大谷玄洲」は本来、剣舞出身であり、会を作る前は「柳生制剛流」を名乗っていたとのことであり、尾州系でありことは明白であるが、誰の門人であったかは不明である。

「柳生流 居合」

中心人物は不明であるが、中部地方で「柳生流居合」と称して行われていると聞いている。「鹿島清孝」の門人と思われる。

【新陰流兵法転会から 分裂した団体】

渡辺忠成先生の実子である渡辺 忠久（わたなべ ただひさ）氏が2010年(平成22年)に、新陰流道統を継承され、第二十三世を受け継がれたが、その時期に転会から分裂した団体が複数ある。

「新陰流正伝上泉会」

2010 年 新陰流兵法転会の会長であった「島 正紀」氏が発足させた会。現在、東京、多摩、大宮で稽古会を行っている。

「新陰流兵法 勢会」

新陰流兵法転会に在籍し、ロシア支部の教導も取っていた「檜崎 伸樹」氏が発足させた会
檜崎氏は「関西同好会」発足当初、何度も渡辺忠成先生とともに関西を訪れ、指導いただいた。

「新陰流兵法 勢心会」

新陰流兵法転会に在籍し、本会が関西支部、兵庫支部に分かれていたころ、一時期、兵庫支部の代表を務めていただいた「来嶋 慎也」氏が発足させた会。現在、鎌倉、藤沢市内で稽古会を行っている。

